

副市長二人体制を  
復活すべき



千保 一夫 議員

**質問**…市の政策形成能力と政策推進能力を高めることが喫緊の課題であると思うがどうか。

**答弁**…市長自ら先頭に立ち財政改革を推進するため、副市長1人制とし、経費の節減を図っている。今後も継続する。

**質問**…副市長の人件費は主査あるいは係長2人分弱だ。それでももつたいないですか。

**答弁**…副市長は2名、給料は満額、

市長も給料満額、退職金も満額戴いて、職員は行政改革のため人員を削る、とは言えない。そう考えて、わたしも給与のカットや退職金のカット、あわせて人員削減として副市長も1人に行っている。

**質問**…市の財政改革の先頭に立つということでは市長自らが給料カット、退職金カットをしている、本当ですか。

市長も給料満額、退職金も満額戴いて、職員は行政改革のため人員を削る、とは言えない。そう考えて、わたしも給与のカットや退職金のカット、あわせて人員削減として副市長も1人に行っている。

**答弁**…1期4年間はやった。2期目はアベノミクスの効果があり、給料は戻した。2期目からは退職金は戴きます、それで良かったら津久井富雄を選んで下さいといつて選挙をした。

一般質問



小野寺 尚武 議員

市民意識調査の中の  
暮らし向きの結果について

**質問**…市民の意識調査が実施されその中に、私が昨年の議会で提案しておいた「市民の暮らし向き調査」も実行していただきました。市民の皆さんの今日の暮らしの実情は大変苦しいものだと思います。当局はこのアンケート結果をどう活用していくのか伺います。

**答弁**…時代の背景とともに団塊の世代が年金者生活になったと

いうことで、先行きに不安を感じる方が若干多くなってきたというところで常日頃から高齢化少子化の問題は申し上げておりまして、高齢化社会においてどのような施策をとっていかなければ市民の皆様方の不安の払拭は出来ないということ、まずは高齢者の方々には元気でいてほしいということ、元氣

政策です。

それと生きがいを持って頂きたいということ、生きがい政策、この2つをあわせて高齢者社会を価値ある人生の集大成として市民生活が送れるような、バックボーンを我々が作り出すためのひとつの指針として政策をつくり上げていかなければならないそのように感じております。